

# イギリス1870年初等教育法の展開(五)

## — ロンドン教育委員会の活動(中の2) —

浦 野 東洋一

### も く じ

はじめに

#### I 教育調査及び統計

A 法律の規定と調査の経過

B 調査の結果

#### II 学校設置の状況

A Voluntary Schools の教育委員会への移管

B ロンドン教育委員会による学校設置

C 学校建築基準

#### III 学校の管理運営

A 1876年学校管理規則

B 校長および教師の採用

#### IV 教育課程

A 政府の教育内容政策

B ロンドン教育委員会の教育内容政策

《以上、本紀要第4号》

#### C Individual Subjects

1 宗教教育

2 読み方、書き方、算数

3 English

4 Object Lessons and Science

5 History and Geography

6 その他の教科

#### V 庶民のための中等教育への動向

A Higher Standard Schools

B Higher Grade Schools

C Higher Elementary Schools

D Classification

#### VI 教師教育

A 校長による pupil-teachers の教育

B Evening School から Teacher's centre へ

《以上、本紀要第5号》

#### VII 教師の賃金

A 初期の賃金 1870-1872年

B 第1期給与表 1872-1883年

C 第2期給与表 1883-1899年

D 第3期給与表 1899年以降

E Pupil-teachersの給与

### VII 教師の賃金

A 初期の賃金 1870-1872年

教師の賃金問題に入るまえに、この時期、つまりロンドン教育委員会が活動していた時期の学校数、教師数、生徒の平均出席者数などを示す貴重な統計があるので、《表13》として紹介しておきたい。

《表13》の統計数字は、各年度とも3月25日(Lady-day)現在のものである。このほか、本稿が依拠しているロンドン教育委員会最終報告書によれば、次のことが知られる。

第12欄の数値、つまり平均出席生徒数を成人教師数で除した数値は、1884年までは第8欄の数値と第11欄の数値に計算上適合しているが、1885年以降は適合していない。その理由は、第1に、1884年までは代用教員(supply teachers)の統計が不備であったこと、第2に、1885年以降は代用教員も成人教師数に含まれているが、第12欄の数値の算出にさいしては、代用教員数の半分を控除しているためである。このことから方程式により代用教員数を求めると、例えば1885年は約51人、1894年約272人、1903年約52人となり、1890年代の中頃に代用教員が最も増加したことがわかる。

《表14》は、《表13》の第12欄をグラフ化したものである。成人教師1人あたりの平均出席生徒数が、1873年80.5人から1903年の41.9人まで、およそ半分に減少した様子がよくわかる。本稿が依拠しているロンドン教育委員会最終報告書は、《表14》に、“平均クラス規模”(the average size of classes)という標題をつけているから、そのように理解してもよいであろう。同報告書は、もし特別教科の教師数が計算にいれられるならば、この“平均クラス規模”の改善はもっと素晴らしいものになっている。すなわち、もしDomestic SubjectsとManual Trainingの担当教師全員、およびDrawingとModern Languages担当の巡回教師の半分の「成人教師」の数

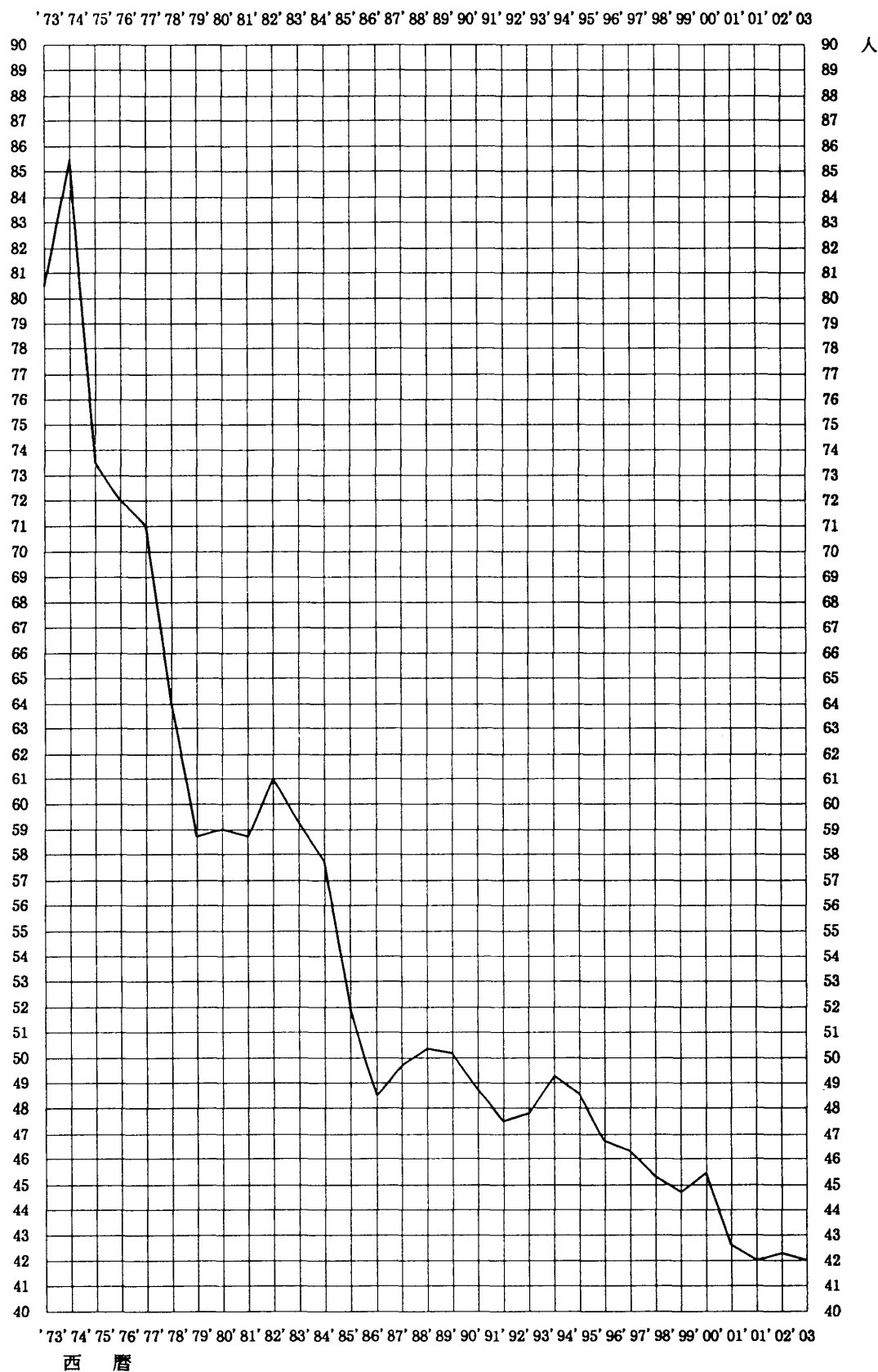
＜表13＞ 学校数，平均出席生徒数，教師数等の統計

Year	No. of Schools	No. of Departments					Average Number in Attendance	No. of Adult Teachers (including Head, Asst. and Supply, and Ex. P. Ts)			No. of Children in Average Attendance per Adult Teacher	No. of P. Ts, Candidates. and Probationers.		
		Boys	Girls	Mixd	Infants	Total		Men	Women	Total		Boys	Girls	Total
1873	138	71	50	29	57	207	22145	109	166	275	80.5	247	401	648
1874	169	100	81	37	83	301	47346	212	343	555	85.3	421	748	1169
1875	195	137	121	30	130	418	76941	393	655	1048	73.4	511	1181	1692
1876	216	164	146	34	142	486	98146	523	838	1361	72.1	509	1250	1759
1877	238	188	168	34	177	567	119729	647	1038	1685	71.1	516	1312	1828
1878	272	228	207	31	214	680	152668	885	1493	2378	64.2	499	1252	1751
1879	299	248	218	46	226	738	168167	1074	1790	2864	58.7	455	1121	1576
1880	305	257	234	41	240	772	186813	1177	1989	3166	59.0	393	1036	1429
1881	301	262	242	37	252	793	197718	1241	2115	3356	58.9	361	1110	1471
1882	310	279	257	35	270	841	225654	1352	2333	3685	61.2	379	1167	1546
1883	324	289	271	36	280	876	242394	1497	2590	4087	59.3	360	1136	1496
1884	357	318	296	41	304	959	275330	1692	3069	4761	57.8	342	1081	1423
1885	371	337	316	34	325	1012	285807	1916	3595	5511	52.1	399	1269	1668
1886	384	354	338	33	344	1069	295753	2076	4065	6141	48.3	407	1236	1643
1887	397	365	353	30	360	1108	319848	2185	4288	6473	49.8	407	1407	1814
1888	393	368	361	28	369	1126	328405	2207	4359	6566	50.4	430	1530	1960
1889	396	370	365	28	374	1137	342321	2319	4579	6898	50.1	396	1560	1956
1890	404	373	367	34	376	1150	345746	2396	4770	7166	48.8	344	1527	1871
1891	410	381	371	37	382	1171	347857	2476	4974	7450	47.4	324	1450	1774
1892	413	382	372	41	388	1183	362585	2574	5166	7740	47.5	308	1552	1860
1893	419	385	379	40	398	1202	379445	2606	5188	7794	49.2	277	1819	2096
1894	426	392	384	46	405	1227	390812	2724	5470	8194	48.5	328	1705	2033
1895	433	393	387	55	414	1249	400912	2883	5796	8679	46.7	385	1868	2253
1896	448	404	396	65	427	1292	415771	3014	6079	9093	46.3	427	1862	2289
1897	457	409	404	73	437	1323	421960	3103	6367	9470	45.3	435	1818	2253
1898	464	417	412	72	445	1346	429853	3197	6545	9742	44.7	416	1947	2363
1899	472	425	422	72	455	1374	438434	3276	6614	9890	45.3	506	2345	2851
1900	481	430	427	75	463	1395	439744	3458	7080	10538	42.6	459	2435	2894
1901	487	431	430	79	468	1408	446866	3532	7291	10823	42.0	405	2414	2810
1902	501	444	440	83	483	1450	462840	3668	7567	11235	42.2	363	2477	2840
1903	509	441	438	97	490	1466	475150	3769	7832	11601	41.9	339	2465	2804

(注) Final Report of the School Board for London, 1904, p.160

イギリス1870年初等教育法の展開(五)

《表14》 成人教師1人あたりの平均出席生徒数 1873-1903年



(注) Final Report of the School Board for London, 1904, p. 159

に算入すれば、“平均クラス規模”は、1873年に80.5人、1883年に58.9人、1893年に48.2人、そして1903年には39.4人になるというのである<sup>62)</sup>。

ここで、《表13》の第2欄の数字、つまり学校数の意味について考察しておきたい。一例として最初にある1873年の「138校」をとりあげてみよう。われわれはすでに、① ロンドン教育委員会が設置した学校が最初に開校したのは1873年7月7日であり、同年にロンドン教育委員会が新設した学校数は16校であったこと、② ロンドン教育委員会へ移管したVoluntary schoolsの数は、1871年に10校、1872年に44校、1873年に20校であった(ただし、移管した後に何らかの事情で閉校になることもあった)、ことを知っている<sup>63)</sup>。

①と②の学校数の合計は90であり、「138」より少ない。この場合、「138」校が1870年初等教育法にいうpublic elementary schoolsであり、そのうち「90」校はschools provided by a school boardであったとみなすことが適当と思われる<sup>64)</sup>。

ただし、移管した学校が閉校になることがあったから、1873年に138校のpublic elementary schoolsが存在したことは確かだとしても、90校のschools provided by a school boardが実際に存在したかどうかは、この最終報告書からは判断できない。

要するに、《表13》の第2欄の数値の意味が叙上のごとくであるとすると、《表13》の他の欄の数値、つまり平均出席生徒数や教師数などの意味も同様に、public elementary schoolsについてのものと解されるのである。

さて、本題にもどろう。本稿が依拠しているロンドン教育委員会最終報告書は、教師の賃金について、次の四つの時期に区分して分析記述している。

- ① 初期 1870-1872年
- ② 第1期給与表 1872-1883年
- ③ 第2期給与表 1883-1899年
- ④ 第3期給与表 1899年以降

すでにみたように、Voluntary schoolsのロンドン教育委員会への移管が始まったのは1871年6月以降であり、ロンドン教育委員会が設置した学校が最初に開校したのは、1873年7月7日であった。したがって、教育委員会が最初にとり扱わねばならなかったのは、移管されたVoluntary schoolsであった。

当時のロンドン教育委員会の方針は、移管に伴う摩擦を避けるために、移管された学校の経営管理については、Voluntary schoolsであったときとできるだけ変わらないようにするということであった。この結果、教師の給与を定める権限をそれぞれの学校の学校理事会(the

Managers)に委ねるということが、初期のロンドン教育委員会の決定であった<sup>65)</sup>。

それでは、1870年以前のたいがいのVoluntary schoolsで採用されていた教師の給与の支払方法はどのようなものであったであろうか。最終報告書の表現によれば、それは都合(convenience)に支配されたというより、むしろ必要性(necessity)に支配されたものであった。つまり、やむをえずそういう方法がとられたということであろう。その中身は何であったであろうか。

Voluntary schoolsの学校経営管理の資金は、授業料(School Fees)、寄附金(Subscriptions)、政府補助金(Government Grant)の3構成部分からなっていた。そして、たいがいの学校で賃金の担当部分をしめる政府補助金は、生徒の学力試験の結果によって、その額が変動した。こうした枠組のもとにおいては、学校理事会が教師に適切な固定給を支払うことは困難なことであった。そこで通常採用された方法は、定期的に支払われる少額の固定給にプラスして、政府補助金の分けまえを支払うという方法であった。

この方法は、最終報告書の評価によれば、財政的には学校理事会に有利なものであった。教師の関心を政府補助金の額に向けさせる性格のものだからである。しかし同時に、それは“出来高払い制度”の弊害を強めるものであった。つまり、この方法のもとでは、教師が生徒を補助金を稼ぐ者(grant-earner)とみなすようになることは必然的であった。

この方法はまた、教師の立場からみても不満足なものであった。教師の固定給は全くの少額であり、彼の満足ゆく給与は、生徒たちが試験で優秀な成績をとり政府補助金が増額になるというあまりあてにならない機会に依存せざるをえないものだったからである。ロンドン教育委員会としても、早晚改善にとりくまざるをえなかったであろう。

#### B 第1期給与表 1872-1883年

他方、個々の学校の理事会に教師の給与を決定させる方式のもとでは、学校教育サービスに対する報酬をおそらく地域全体で調整することは不可能であったし、また地域全体から見た場合、同じ資格や経歴をもち同じ教育サービスに従事している教師の賃金に不平等が生ずることになった。関係者の不満が高まるのは自然であった。

そこで1871年10月にSchool Management Committeeは、教師の給与を定める(fix the salaries of teachers)方針を決定し、検討の結果、1872年の初めに給与表(a scale of salaries)の設定を勧告した。

ここで注意しなければならないことは、ここでいう「給与表」から、今日の日本の教育公務員の「教育職俸給表」のごときものをイメージしてはならないということである。国の制度として“出来高払い制度”が厳に存在する以上、「教育職俸給表」のごとき給与表の設定は不可能であったにちがいない。

School Management Committee が勧告した1872年給与表の内容は、原理的にはVoluntary schools で採用されているのと同じだとされているが、おそらく学力試験実施の有無、つまり“出来高払い制度”の適用の有無による区別であろう、Infant schools の教師と他の学校の教師とではちがう取扱いになっている。そこで、Infant schools 以外の学校の教師の場合についてみると、その内容は要次のとおりである。

- (1) 毎月固定給を支払い(a fixed salary, paid monthly), 毎年政府補助金を支払う(a share of the Government grant, paid annually)ものとする。
- (2) 政府補助金の配分については、当該学校に対する政府補助金の半額を校長に支払い、他の半額は学校理事会が校長と協議のうえ教師(assistant teachers)に裁量により配分し、支払うものとする。ただし、教師(assistant teacher)が1人しかいない学校においては、その教師に対し政府補助金の4分の1の額を支払うものとする。
- (3) pupil-teacher を指導した教師に対しては、男子のpupil-teacher 1人につき年額£5、女子のpupil-teacher 1人につき年額£4を支払うものとする。ただし、教師は原則として6人を超えるpupil-teacher の指導を受持つてならないものとする。
- (4) 上記(1)によって支払われるfixed salary については、別表により年間の(fixed annual salary)最高限度額を定める。

以上が、1872年勧告の骨子である。上記(4)の「別表」をみると、校長は資格により4等級に分かれているが、男子校長の最高額は£200、女子校長の場合は£110となっている。教師(assistant teachers)は7等級に分かれていて、男子の最高限度額は£100、女子のそれは£60となっている。ちなみに、pupil-teachers は週給とされており、1年目のpupil-teachers の週給は、男子で6s. 女子で4s. とされている。

本稿が依拠しているロンドン教育委員会最終報告書によれば、この1872年給与表の問題点は、大きくは第1に男女間の格差が目立つことと、第2に学位、学歴や経歴、資格、勤務成績などによる増額が考慮されていないこと、

の2点であった。その後、これらの点について修正が加えられ、1875年7月に、《表15》のように体系化された。

ここでも注意しておきたいことは、《表15》の給与表は、政府補助金の配分について書いておらず、政府補助金は従来の方法で配分され、支払われるということである。

1872年給与表と1875年給与表とを比較してみると、「固定給」の部分の最高限度額の男女間の格差は、校長の場合、1.8倍から1.4倍へ、教師の場合で1.6倍から1.2倍へと縮小しており、改善への努力のあとが認められる。また、学士号や各種のCertificate の取得者、あるいは勤務成績良好者への加棒など、教師の質の向上への給与面からの助長、改善がうかがわれる。さらに、最終報告書は指摘していないことであるが、1875年給与表は、校長や教師の「固定給」の部分の、いってみれば初任給ないし最低限度額を定めたことにもなっているといえる。この1875年給与表は、何ら重要な変更を加えられることなく、8年間存続した。

#### C 第2期給与表 1883-1899年

8年間存続したものの、1875年給与表に問題がなかったわけではない。より正確に言えば、1875年給与表の「固定給」部分に大きな問題があったというよりも、政府補助金のとり分を含めた、全体としての教師の給与(収入)の実態に大きな問題が生じたというべきであろう。早くも1878年2月に、ロンドン教育委員会は次の決議を採択した<sup>69)</sup>。

School Management Committee は、次の条件を満たすように教員給与改善策を検討し、ロンドン教育委員会に改善計画を提出すること。

- ① 給与の計算方式を単純化すること(teachers may be paid more generally)。
- ② 固定給(fixed salaries)の部分が多くなるようにすること。
- ③ 小規模校や特別に困難をかかえている学校の教師の給与(収入)が改善されるような策を講じること。

この決議の背後には、大きくは次の2つの事情があったようである。

すでにみたように、ロンドン教育委員会が新設した学校数は1878年までに171校であり、移管されたVoluntary schools は同年までに122校にたっていた。学校規模(生徒収容数)はまちまちであったが、概して新設校の方が、移管された学校よりも大規模校であった。

他方で、最初の給与表である1872年勧告は、政府補助金の額を生徒1人あたり平均6ないし9シリングと計算

〈表15〉 1875年給与表

## SALARIES FOR HEAD TEACHERS

	Male	Female
Subject to the rule that the commencing salary of a head teacher shall in no case be less than ... ..	£ 110	£ 90
The amount of salary on appointment will be based upon the result of the Certificate Examination as set out in Table I., together with an increase for receipt of parchment of ... ..	10	6
And such further increase, in consideration of valuable experience and proved superior ability as may seem proper to the School Management Committee, in each case, considered on its merits; such addition, however, not to exceed in any case ... ..	60	40
After appointment the increase will be for each "Good Report" ... ..	10	6
So as to rise to a maximum of ... ..	210	150

## SALARIES FOR ASSISTANT TEACHERS

	Fixed Annual Salary	
	Male	Female
A. — Ex. Pupil Teachers: —	£	£
In 1st year ... ..	55	50
In 2nd, or higher year ... ..	60	55
B. — Teachers under Probation: —		
(a) Teachers who have passed the Certificate Examination, but who have not been Pupil Teachers nor trained: —		
3rd Division ... ..	60	55
2nd " ... ..	65	60
1st " ... ..	70	65
(b) Teachers who have been Pupil Teachers, and who have passed the Certificate Examination, but who have not been trained, or —		
(c) Teachers who have been trained for one year, or —		
(d) Teachers who have been trained for two years, but have taken the first year's papers: —		
3rd Division ... ..	65	60
2nd " ... ..	70	65
1st " ... ..	75	70
(e) Teachers who have been trained for two years, and have taken the second year's papers: —		
3rd Division ... ..	70	65
2nd " ... ..	75	70
1st " ... ..	80	75
C. — Teachers with Parchments: —		
The above Salaries will be increased on the receipt of parchment, and on every Subsequent "Good Report," by ... ..	5	3
So as to rise to a maximum of ... ..	110	90

The annual salary in the case of both assistant and head teachers, as determined above, will be further increased for the following qualifications: —

	Male	Female
	£	£
Fall Drawing Certificate ... ..	5	5
Three or more advanced Science Certificate ... ..	5	5
One advanced Science Certificate ... ..	...	£ 2 10s
A Bachelor's Degree in any University of Great Britain or Ireland, or in the case of women, five Special Certificate of higher proficiency (of which not more than two shall be for language) granted by the London University ...	10	10

(注) Final Report of the School Board for London, 1904, pp.164-165.

ただし一部に手を加えた。

したうえで作成されたものであった。この推定は実際の額より多めで、1874年の生徒1人あたりの政府補助金は平均5シリング4ペニーであった。ところが、この平均額が1883年には15シリング8ペニーというように、増加していった。そうすると、政府補助金のとり分を通じての、とりわけ大規模校の校長の給与(収入)が急増し、1872年および1875年給与表が予想しなかった高額を得ることに結果したのであった。

いま一つは、貧困地域の学校や家庭的に恵まれない子ども(waifs and strays)が多い学校の教師と、恵まれた地域の学校の教師との間の、仕事のしやすさと困難さのちがいが加えての、収入の格差が明白になったことである。上記のロンドン教育委員会の決議は、こうしたいわば不公平を改革しようとするものであった。

しかし、こうした問題点には、国の制度である“出来高払い制度”による国庫補助金の配分に必然的に伴うものという性格があったから、国の制度を前提としたうえでの改善案の作成は容易な仕事ではなかった。また、既得権を守ろうとする動きもあった。改善案が作成され、ロンドン教育委員会に提出され、差し戻しとなりあるいは否決され、再び改善案が検討され、作成されるということが、何度かくりかえされた。

そして、決議からはば6年後の1883年12月20日に、ロンドン教育委員会はようやく新給与表の決定にこぎつけたのであった。その骨子は、次のとおりである<sup>67)</sup>。

(1) 校長の給与について

- ① 学校規模(accommodation)により、次のグレードをつけるものとする。

Grade I	生徒収容力180人以下
II	181人以上280人以下
III	281人以上380人以下
IV	381人以上500人以下
V	501人以上

- ② 初任給(commencing salaries)を次のとおりとする。

	masters	mistresses
Grade I	£ 150	£ 120
II	155	124
III	160	128
IV	165	132
V	170	136

- ③ グレードVの校長の給与の最高限度額を次のとおりとする。

masters of Boys' or Mixed departments	£ 400
mistresses of Girls' or Mixed departments	£ 300
mistresses of Infants' departments	£ 240

- (2) 有資格教師(certificated assistant teachers)の給与について

- ① それまでに受けた訓練と資格、および教職経験に応じて、初任給を、

男子教師の場合	£ 60 ~ £ 115
女子教師の場合	£ 50 ~ £ 100

の間に定めるものとする。

- ② School Management Committee から“good report”の評価を得た場合、男子教師にあっては£ 5、女子教師にあっては£ 3を加棒する。

- ③ 最高限度額を、

男子教師の場合	£ 155
女子教師の場合	£ 125

とする。

- (3) 特別に困難な学校の校長には£ 20、教師には£ 10を加棒する。

- (4) 以上の新しい給与表は、1883年10月1日およびその日以降に働き始めたすべての新任の校長と教師に適用されるものとする。

- (5) 1883年10月1日まで(同日は含まれない)に採用され働き始めていた校長と教師については、新給与表による給与で収入減になるときは、新給与表によっても収入減にならなくなるまでの期間、旧給与表によって賃金を支払うものとする。ただし、本人が新給与表への移行を希望したときはこの限りではない。

以上の1883年給与表からは、学校規模によるグレード制の導入、特別困難校の教師への加棒、教師の既得権は守りある時点以降に採用した者から新給与表を適用するという方式の導入などに、工夫されたあとがうかがわれる。

1883年給与表の実施とかかわって注目されることは、ロンドン教育委員会がいわゆる教師の資質向上に意図的であったことである。1883年以降、教師の諸資格の基準が徐々に引き上げられていった。そして、トレーニング・カレッジできちんとした訓練を受けていない者(untrained teachers)は採用しないという方向が強められていった。およそ13年後の1897年3月4日には、ロンドン教育委員会は次の決議を採択するに至った<sup>68)</sup>。

1897年3月4日以降にロンドン教育委員会の常勤職員として採用されるAssistant teachersは、5種類の追加資格(five points of additional qualifications)を取得し

ているかもしくは取得した後でなければ昇給することはない。ただし、parchment certificateの取得者は除く。

上記5種類の追加資格には、次の3種類が含まれていなければならない。

- ① Drawing subject certificate
- ② the Board's Physical Education certificate
- ③ Advanced Science certificate (senior departmentsの教師の場合)

Kindergarten certificate (Infants' departmentsの教師の場合)

#### D 第3期給与表 1899年以降

1883年給与表は、歴史的にみてかなり安定したもので、小さな改訂はなされたが、基本にわたる変更は加えられることなく9年間経過した。

1892年10月6日に、ロンドン教育委員会である勧議が発議された。それは、すべての男子教師の給与の最高限度額を£155から£175へ引き上げ、勤務成績の良好な者に対しては毎年£5を加増しようというものであった。この勧議は採択されなかったが、教師の給与問題を検討するSpecial Committeeが設置された。このSpecial Committeeは翌1893年6月15日に検討結果をロンドン教育委員会に報告し、次の2点を提案した。

- (1) 校長の給与の算定については、平均出席生徒数を基礎データとして採用すること。
- (2) 校長の給与は、いかなる場合であっても£350を超えないものとする。

これまでは学校規模(生徒収容力)によってグレードをつけていたわけだから、平均出席生徒数を基礎データにとり入れることは、全く新しい考え方であった。また、前述のように1883年給与表は、グレードVの男子校長の給与の最高限度額を£400としていたから、上記の提案は、一部の校長にとっては給与引き下げになるおそれのある提案であった。ロンドン教育委員会は、(1)の提案は否決し、(2)に提案については、その後採用される教師のみに適用することにして採択した。

その後、1895年10月31日に、School Management Committeeが教師の給与問題にとりくむことが決定され、およそ2年半にわたりロンドン教育委員会との協議が続けられた。そして、1898年3月19日に、同Committeeから最終報告書が提出された。ロンドン教育委員会はこの報告書にもとづいて審議し、1899年3月9日にいったて、大要以下の決定をくだしたのであった<sup>69)</sup>。

- (1) 有資格教師(certificated assistant teachers)の給与の最高限度額を、男子教師の場合£155から£175

に、女子教師の場合£125から£140に、それぞれ引き上げる。ただし、初任給は男女とも一律に£5引き下げる。

- (2) 教師の資質を向上させる措置をとる。例えば、トレーニング・カレッジで十分訓練された者とそうでない者(teachers untrained or trained for one year only)との間に、明確な格差をつける。すなわち、十分訓練されていない男子教師の給与の最高限度額を£160とし、女子教師のそれを£130とする。(上記(1)と比較対照すると、最高限度額で男子教師の場合£15、女子教師の場合£10の格差をつけたことがわかる。)

また、教師となる資格を備えた者でも、一定の(従前より高度の)試験に合格しない者は、常勤の教師としては採用しない。他方で、大学の卒業者を優遇する。トレーニング・カレッジで3年間訓練を受けた者もしくはB.A.の学位を取得した者の初任給は、£5増額する。

- (3) 有資格教師の給与の最高限度額を引き上げたことにともない、校長の給与を改善する。グレードIの校長の給与の最低額を男子校長においては£175、女子校長においては£140に引きあげる。£350という、男子校長の最高限度制限は廃止する。
- (4) 学校規模によるグレードを次のように改める。

- |         |              |
|---------|--------------|
| Grade I | 生徒収容力200人以下  |
| II      | 201人以上300人以下 |
| III     | 301人以上400人以下 |
| IV      | 401人以上600人以下 |
| V       | 601人以上       |

(この区切りは、従前にくらべて“大規模校化”している。)

- (5) 昇給は、年間の勤務成績が良好の者についておこなうものとする。

以上の1899年改訂の特徴は、給与の引き上げと教師の資質向上にあったといえる。不思議なことは、本報告書においては、“出来高払い制度”の廃止への動向とのからみが叙述されていないことである。この問題については別個の課題としなければならない。

#### E Pupil-teachersの給与

本章の最後に、pupil-teachersの給与について概観しておく。まず、1872年のSchool Management Committeeの勧告において、pupil-teachersは週給とされており、その額は次のように定められていた<sup>70)</sup>。



	Weekly Salary	
	Males	Females
First year of Apprenticeship	6s.	4s.
Second "	7s.	5s.
Third "	8s.	6s.
Fourth "	10s.	8s.
Fifth "	12s.	10s.

Candidate pupil-teachers の給与は, first year pupil-teachers の半額とされた。

上記週給の額は, 年がたてば昇給するというものではなく, 昇給するにはHMIがおこなう年次試験に合格すること, および勤務成績は良好であったとの校長の証明が必要であった。

すでにみたように, 1874年から1875年にかけて pupil-teachers の教育(教師養成教育)の改善について大きな努力が払われた<sup>71)</sup>。

その動きの中心にいた有力な教育委員J. Rodgers は, 有能な若者をcandidatesとして迎えるためにはpupil-teachersの給与を改善する必要があると説いた。その結果, ロンドン教育委員会は1875年6月23日に, 給与表を次のように改訂した。

	Weekly Salary	
	Males	Females
Candidates	6s.	4s.
Pupil-teachers		
Who had passed the examination prescribed by the Education Department		
For the end of the 1st year	9s.	5s.
" 2nd year	11s.	6s.
" 3rd year	13s.	8s.
" 4th year	16s.	10s.

ついで, 1877年2月7日, ロンドン教育委員会は, 資格を取得したpupil-teachersに加俸することを決めた。それは, ①Full Drawing Certificateを取得したpupil-teachersに対して, 男女とも, 年額£5支給する。②3種類以上のAdvanced Science Certificatesを取得したpupil-teachersに対し, 男女とも, 年額£5支給する。③1種類のAdvanced Science Certificateを取得したpup

il-teachersに対し, 女子のみ, 年額£2 10s.を支給する, という内容であった。

1881年3月24日には, 男子のcandidatesの週給を6s.から7s.へ引き上げた。これは適当な男子のcandidatesがなかなか集まらなかったからであった。

ところで, DrawingとScienceに関する特定の資格を取得したpupil-teachersには加俸することを1877年に定めたのであったが, その後, この特定の資格の取得にいわば熱中し, セントラル・クラスの授業や訓練をおろそかにするpupil-teachersが生じた。単に生じただけでなく, 増加したものとみられ, 1883年には, この加俸制度は廃止されたしまった。

1884年から1885年にかけて, セントラル・クラスでのpupil-teachersの教育のあり方について改善がなされ, 1885年8月には最初のパーマナントなpupil-teacher's centerが開設されたことについてはすでに述べた<sup>72)</sup>。この改善により, pupil-teachersが勤務校で授業に従事する時間は少なくなり, ティーチーズ・センターで授業や訓練を受ける時間が増えた。そこでロンドン教育委員会は1886年に, 従来candidatesと呼んでいた者を1st year probationersと呼び, また従来1st year pupil-teachersと呼んでいた者を2nd year probationersと呼ぶこととし, 給与の見直しをおこなった。その内容は, ①1st year probationersの給与は, 週給で, 男子の場合5s., 女子の場合3s.とする。(これは従前のcandidatesの給与にくらべると賃下げである。)②2nd year probationersの給与は, 従前の1st year pupil-teachersの給与と同額とする。③従前の1st year pupil-teachersにあたる者の給与は, 少額減額する, というものであった。

その後は, 金額の改訂はあったものの, 枠組み自体の変更はなかった。参考までに, 1900年に改訂された給与表を次に掲げておく<sup>73)</sup>。

(annual salaries)	Males	Females
	£	£
Probationers(Junior)	0	0
" (Senior)	16	8
1st year pupil-teachers	20	10
2nd year "	26	16
3rd year "	30	24
Extended 3rd year "	30	24

みられるように男女間の格差には, いぜんとして根強いものがある。すでにみたように<sup>74)</sup>, 1900年における

pupil-teachers の男女比率は、男14%強、女85%強であったから、これはまたすこぶる安上がりの政策であったともいえる。

(つづく)

《注》

- 62) Final Report of the School Board for London, 1904, P. 160
- 63) 拙稿「イギリス1870年初等教育法の展開(三) 本紀要第4号, 1983年, 5頁, 10頁, 11頁参照。
- 64) 拙稿「イギリス1870年初等教育法に関する一考察」北海道教育大学紀要(第一部C)第29巻第1号, 1978年, 20頁参照。
- 65) Final Report of the School Board for London, 1904, P. 161
- 66) Ibid., p. 166
- 67) Ibid., pp. 168-169
- 68) Ibid., p. 170
- 69) Ibid., pp. 172-173
- 70) Ibid., p. 162
- 71) 本紀要第5号, 12-13頁
- 72) 同前, 13頁
- 73) Final Report of the School Board for London, 1904, p. 177
- 74) 本紀要第5号, 15頁